



2022年3月期 第3四半期 決算短信補足資料

(注)「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号2020年3月31日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、当該会計基準等を遡って適用した前年同四半期連結累計期間及び前連結会計年度との比較・分析を行っております。

2022年2月4日
日本水産株式会社

減損発生も各段階損益で過去最高益を更新。

- 水産はリバウンド消費に加え、堅調な魚価もあり増収増益。
- 食品はコストアップの影響があるも、引き続き売上好調で増収増益。
- 特別損失として50億円の減損損失を計上。

(単位：億円)	2021年3月期 第3四半期	2022年3月期 第3四半期	対前年同期比		2022年3月期 計画 (11/5公表)	進捗率 (%)
			増減	増減率(%)		
売上高	4,662 億円	5,252 億円	589 億円	12.7	6,730 億円	78.1
営業利益	150 億円	246 億円	95 億円	63.7	245 億円	100.6
経常利益	188 億円	293 億円	105 億円	56.0	280 億円	104.8
四半期 純利益	131 億円	166 億円	34 億円	25.9	170 億円	97.7

年間計画を上方修正。

■ コロナ再拡大や各種コストアップの懸念あるも年間計画を上方修正する。

(単位：億円)	2022年3月期 計画 (11/5公表)	2022年3月期 修正計画	対計画比		2021年3月期 実績	対前期比	
			増減	増減率(%)		増減	増減率(%)
売上高	6,730 億円	6,900 億円	170 億円	2.5	6,150 億円	749 億円	12.2
営業利益	245 億円	270 億円	25 億円	10.2	179 億円	90 億円	50.0
経常利益	280 億円	330 億円	50 億円	17.9	226 億円	103 億円	45.6
当期 純利益	170 億円	180 億円	10 億円	5.9	143 億円	36 億円	25.1

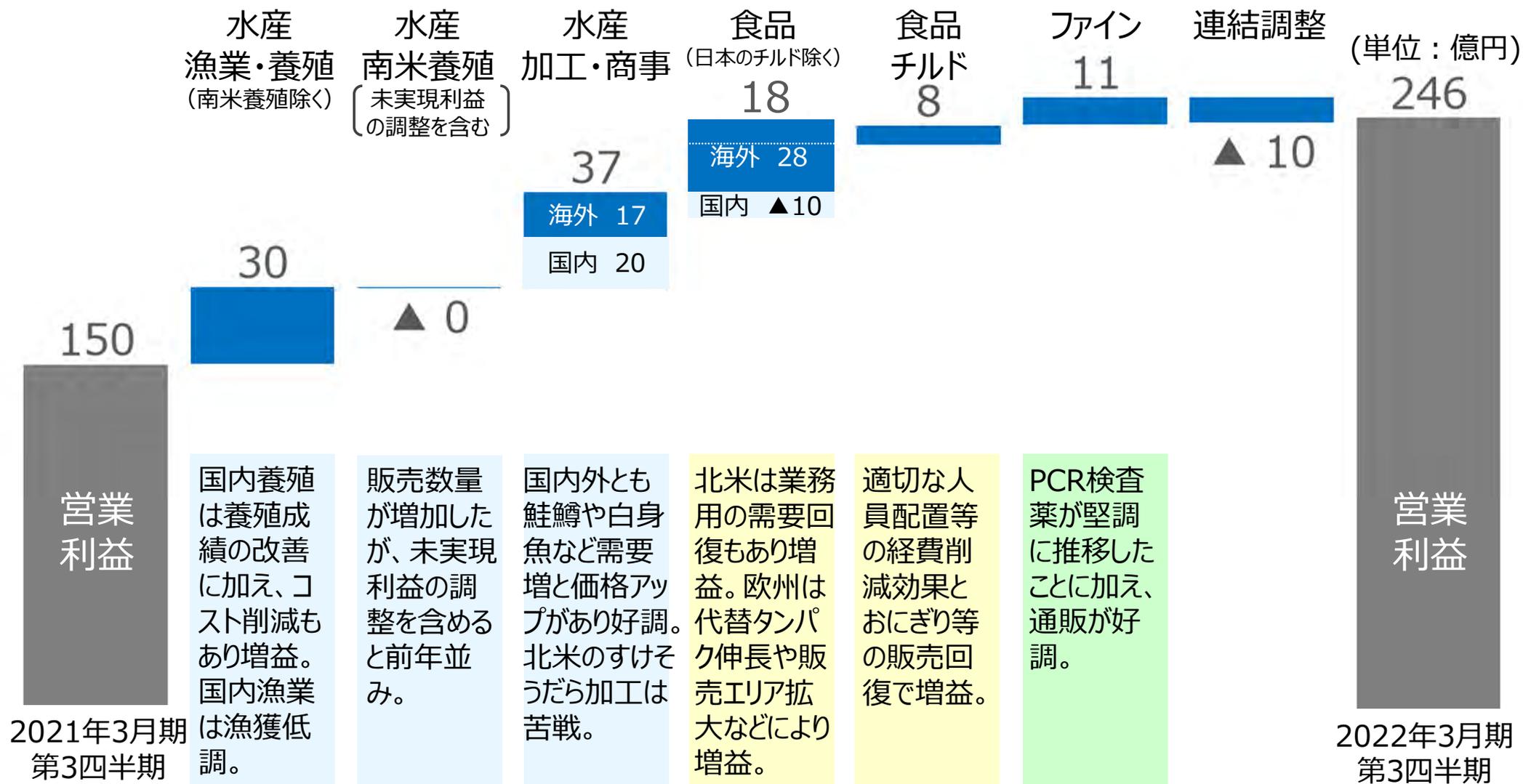
水産・食品事業とも大幅増収。

(単位：億円)	2021年3月期 第3四半期	2022年3月期 第3四半期	対前年同期比増減	
			(億円)	率(%)
売上高	4,662	5,252	589	12.7
水産事業	1,930	2,179	249	12.9
食品事業	2,273	2,501	228	10.0
ファインケミカル事業	189	243	53	28.3
物流事業	128	121	▲7	▲5.7
その他	140	206	65	46.9
営業利益	150	246	95	63.7
水産事業	52	112	60	114.8
食品事業	109	134	24	22.7
ファインケミカル事業	19	30	10	56.6
物流事業	18	17	▲0	▲0.6
その他	5	8	2	48.9
全社経費	▲54	▲57	▲2	5.2
経常利益	188	293	105	56.0
親会社株主に帰属する四半期純利益	131	166	34	25.9

主な営業利益増減要因(前年同期比)



- 行動制限の緩和に伴い需要が回復し、水産と食品が好調。
- 国内養殖やチルドの体質強化も進んだ。



連結貸借対照表(前期末比)



受取手形及び売掛金など運転資本が増加。

() 内の数字は前期末比増減

(単位:億円)

流動資産	2,768	(+450)	流動負債	1,832	(+294)
現金及び預金	143	(+33)	支払手形及び買掛金	503	(+86)
受取手形及び売掛金	1,078	(+317)	短期借入金	888	(+202)
棚卸資産(在庫)	1,388	(+97)	未払費用	293	(+64)
固定資産	2,430	(▲6)	固定負債	1,319	(▲20)
有形固定資産	1,434	(▲39)	長期借入金	1,072	(▲49)
無形固定資産	113	(+15)	純資産	2,047	(+169)
投資その他の資産	881	(+17)	自己資本	1,861	(+166)
総資産	5,198	(+444)	自己資本比率	'21/3 35.6% ⇒ '21/12 35.8%	

連結キャッシュ・フロー(前年同期比)



売上増加などで資金需要が膨らんだ。

(単位:億円)	2021年3月期 第3四半期	2022年3月期 第3四半期	増減
・税金等調整前四半期純利益	199	247	47
・減価償却費 (のれん償却含む)	148	147	▲ 0
・運転資本	▲ 11	▲ 219	▲ 208
・法人税等の支払額	▲ 29	▲ 76	▲ 47
・その他	▲ 82	▲ 6	75
営業活動によるCF	224	91	▲ 133
・設備投資額 (固定資産取得額)	▲ 185	▲ 133	51
・その他	65	0	▲ 65
投資活動によるCF	▲ 119	▲ 132	▲ 13
・短期借入金の増減額	▲ 340	156	497
・長期借入金の増減額	115	▲ 31	▲ 146
・その他	▲ 37	▲ 47	▲ 9
財務活動によるCF	▲ 262	78	341
現金及び現金同等物の期末残高	158	186	

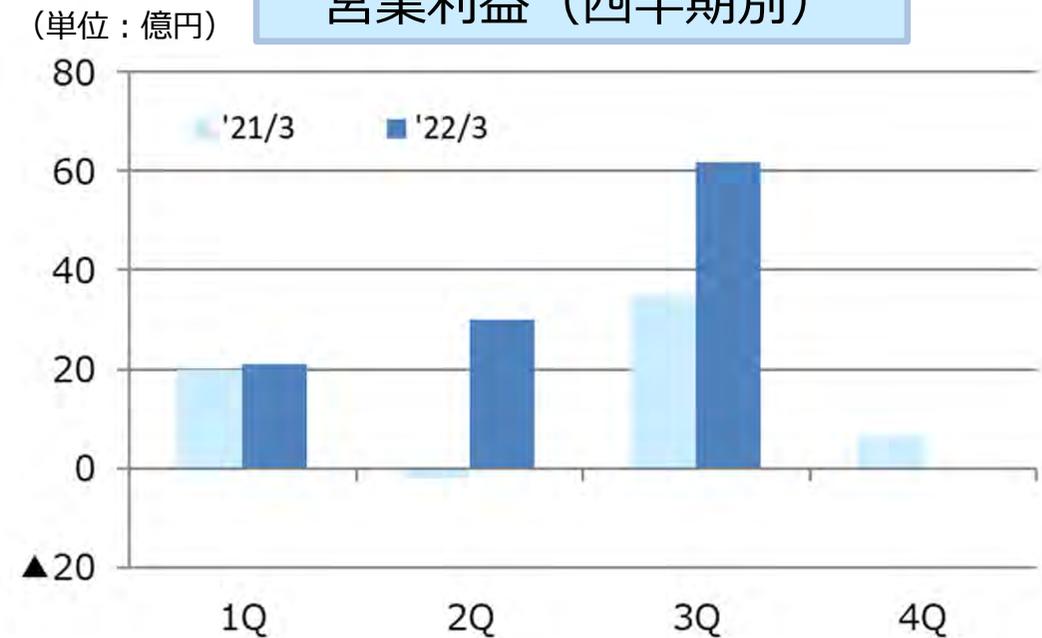
■ 需要の回復と市況の改善もあり、大幅な増収増益。

(単位：億円)	2021年3月期 第3四半期	2022年3月期 第3四半期	対前年同期比増減	
			(億円)	増減率(%)
売上高	1,930	2,179	249	12.9
営業利益	52	112	60	114.8

売上高 (四半期別)



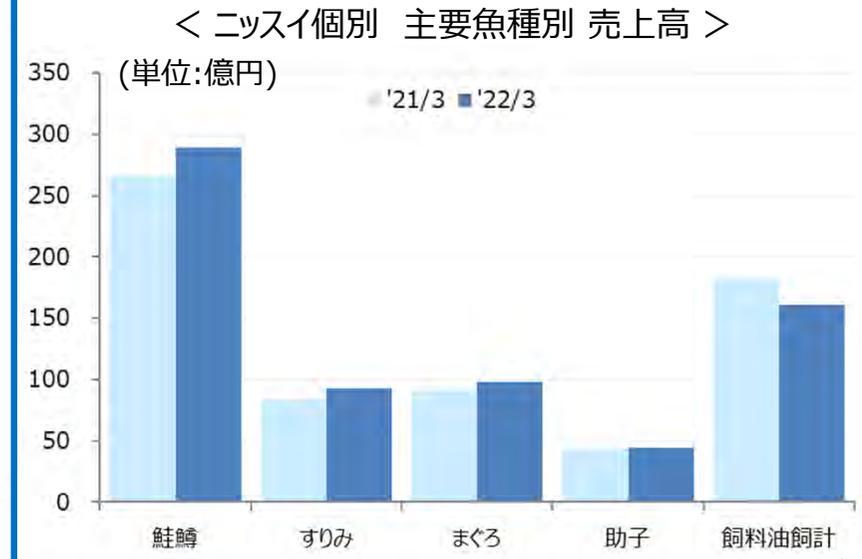
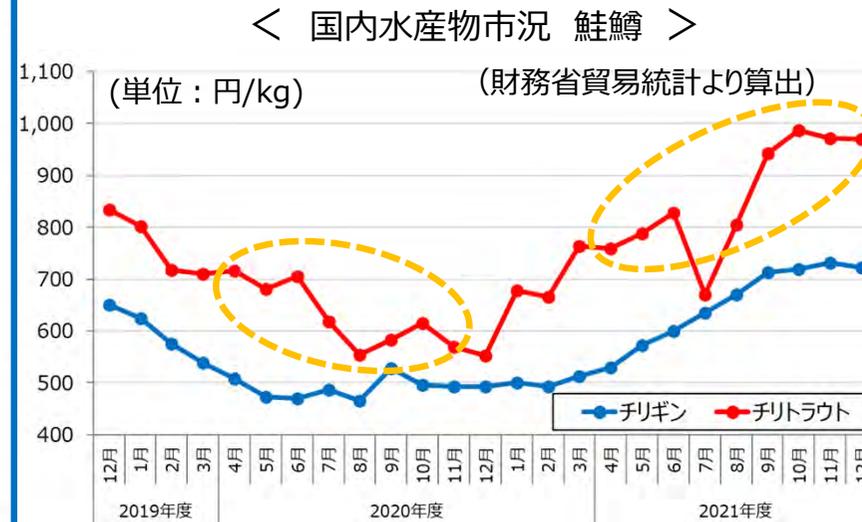
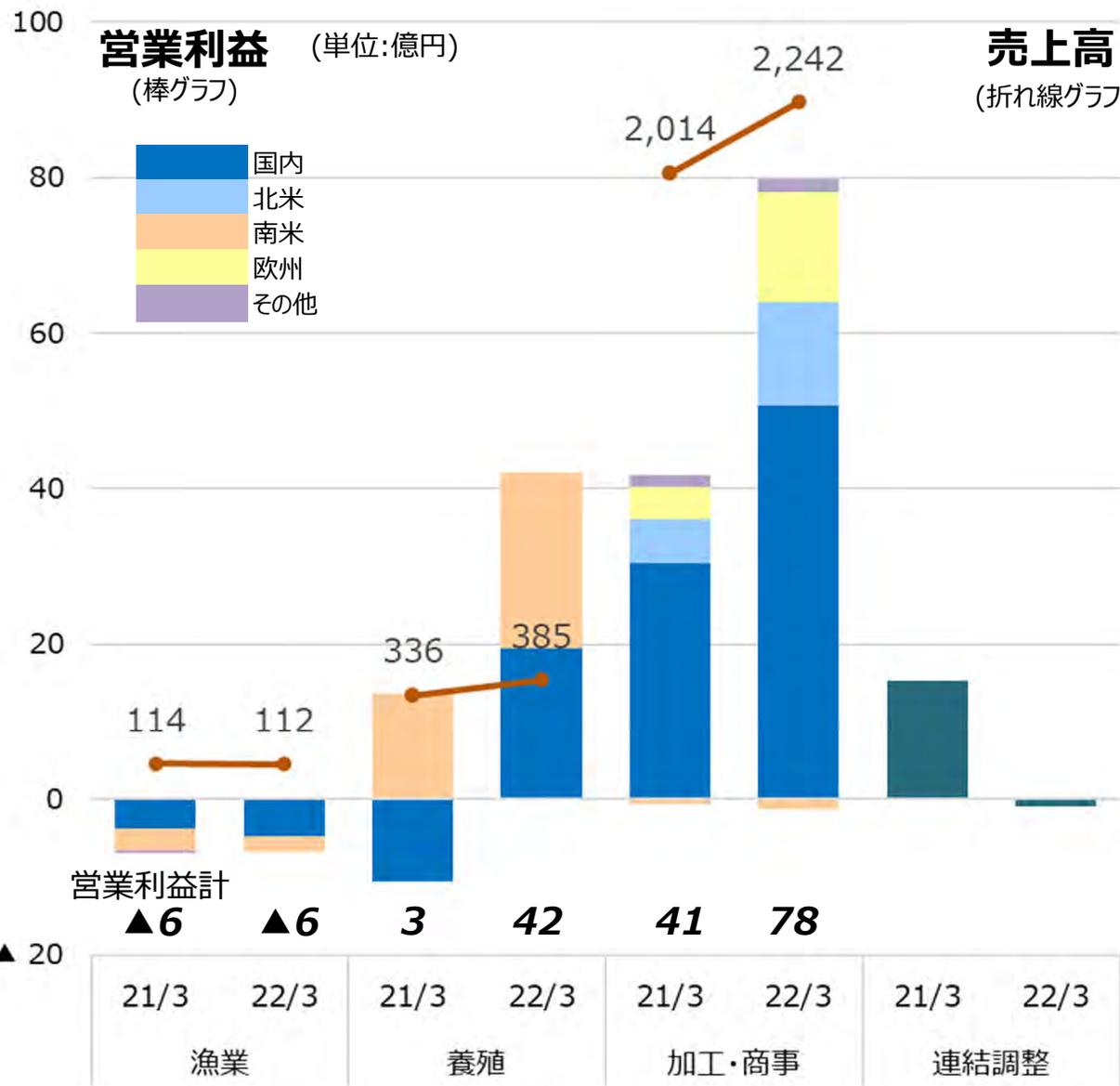
営業利益 (四半期別)



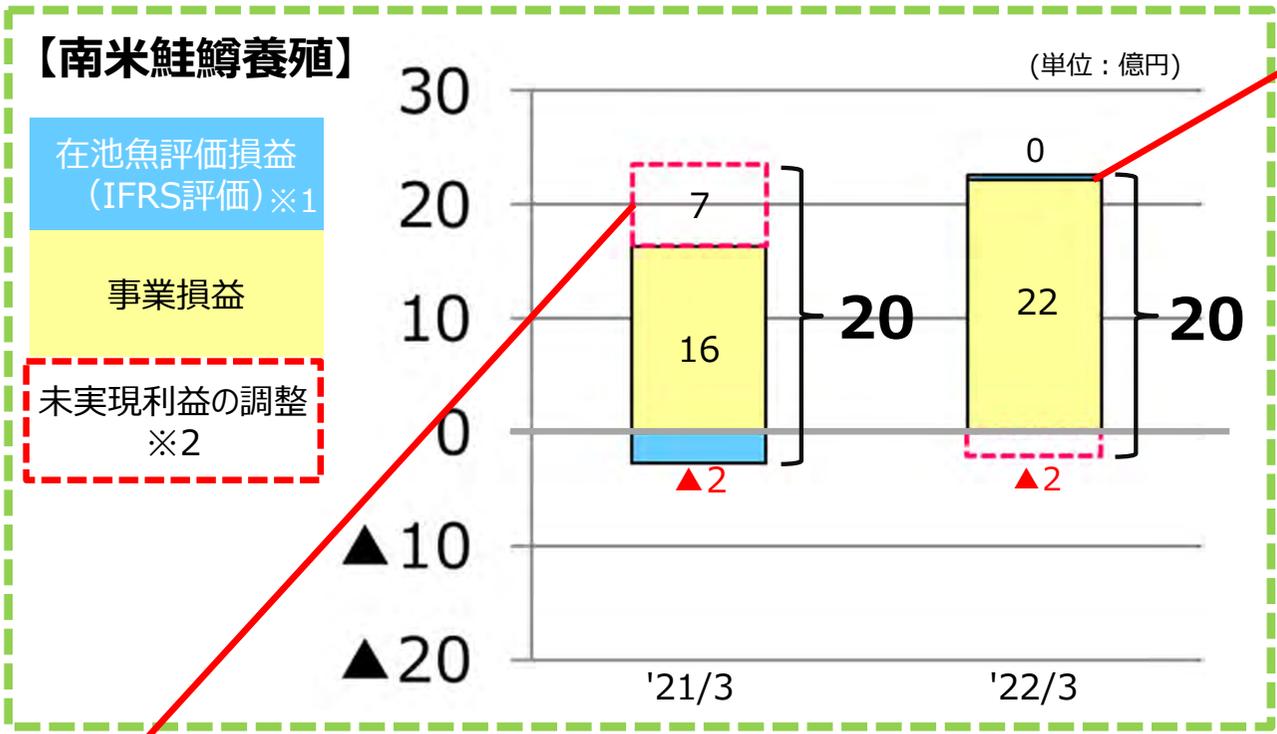
水産事業 売上高・営業利益(前年同期比)



- 市況回復に加え、養殖成績改善・リバウンド消費などもあり大幅な増収増益。
- 漁業と北米加工は苦戦。



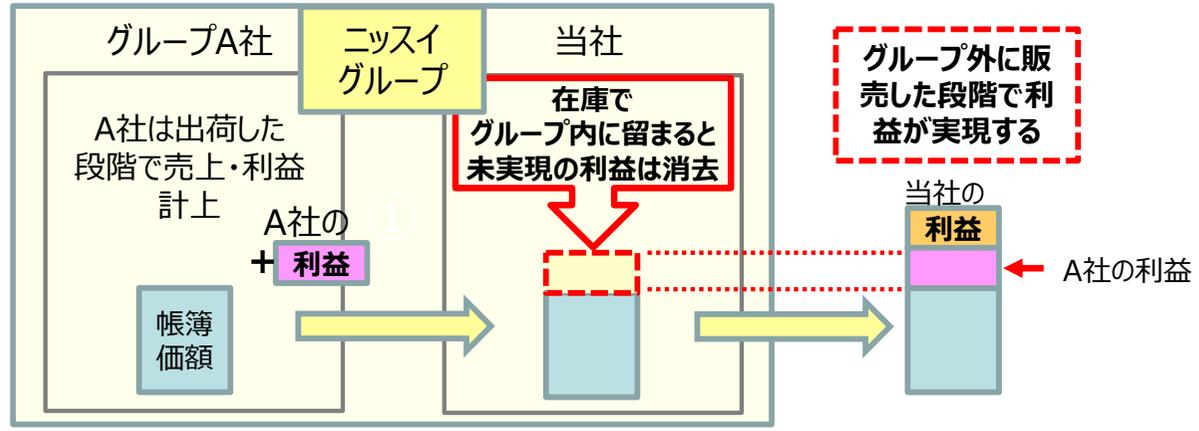
未実現利益を含めた南米養殖事業の利益は、ほぼ前年並み。



※1 在池魚評価損益
生簀にいる出荷前の魚（在池魚）
の想定利益



※2 在庫に含まれる
未実現利益の調整



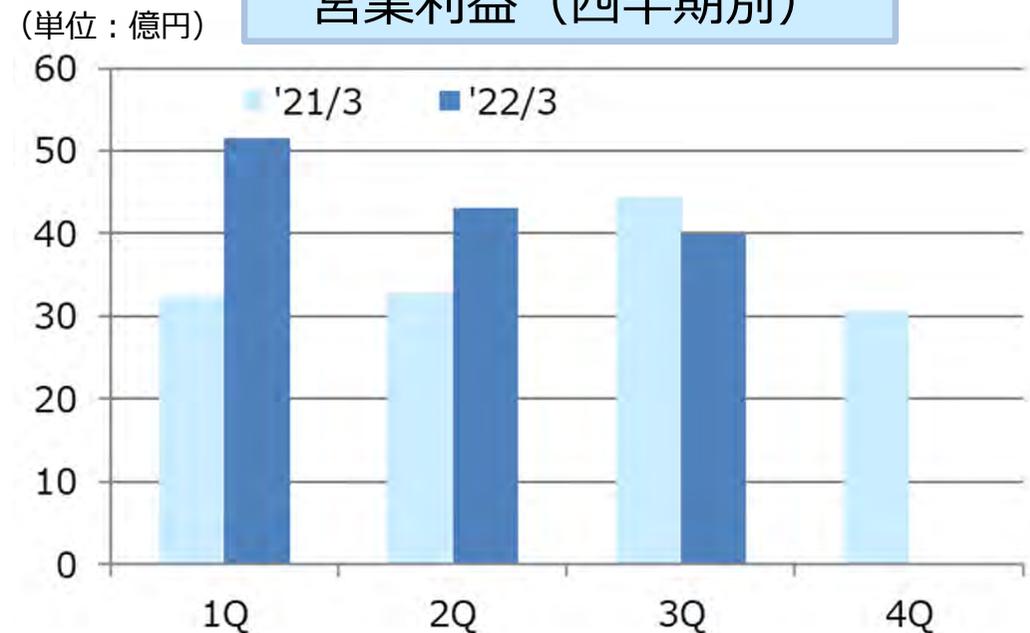
- 行動制限緩和で業務用が好転、チルドは生産体制適正化で増益。
- 3Qからコストアップの影響が出始めた。

(単位：億円)	2021年3月期 第3四半期	2022年3月期 第3四半期	対前年同期比増減	
			(億円)	増減率(%)
売上高	2,273	2,501	228	10.0
営業利益	109	134	24	22.7

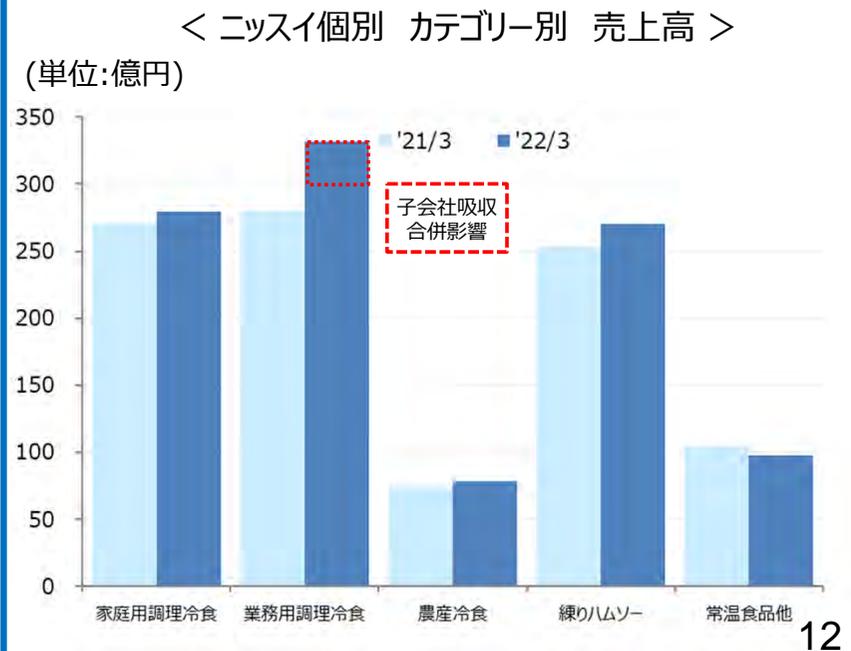
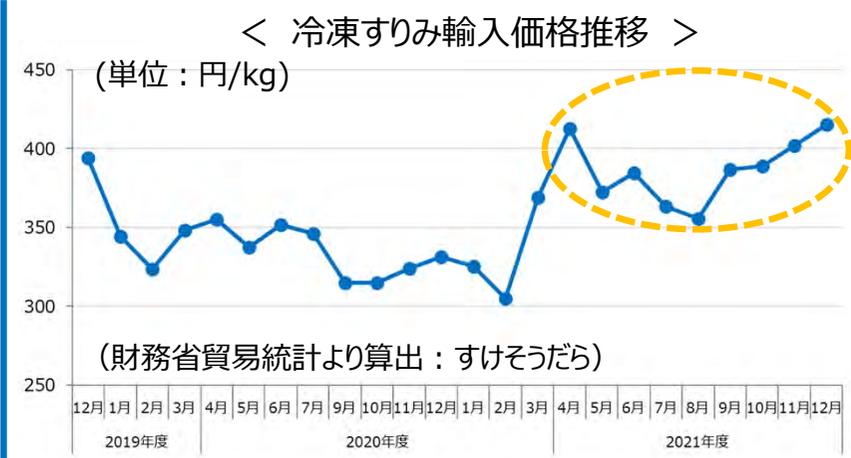
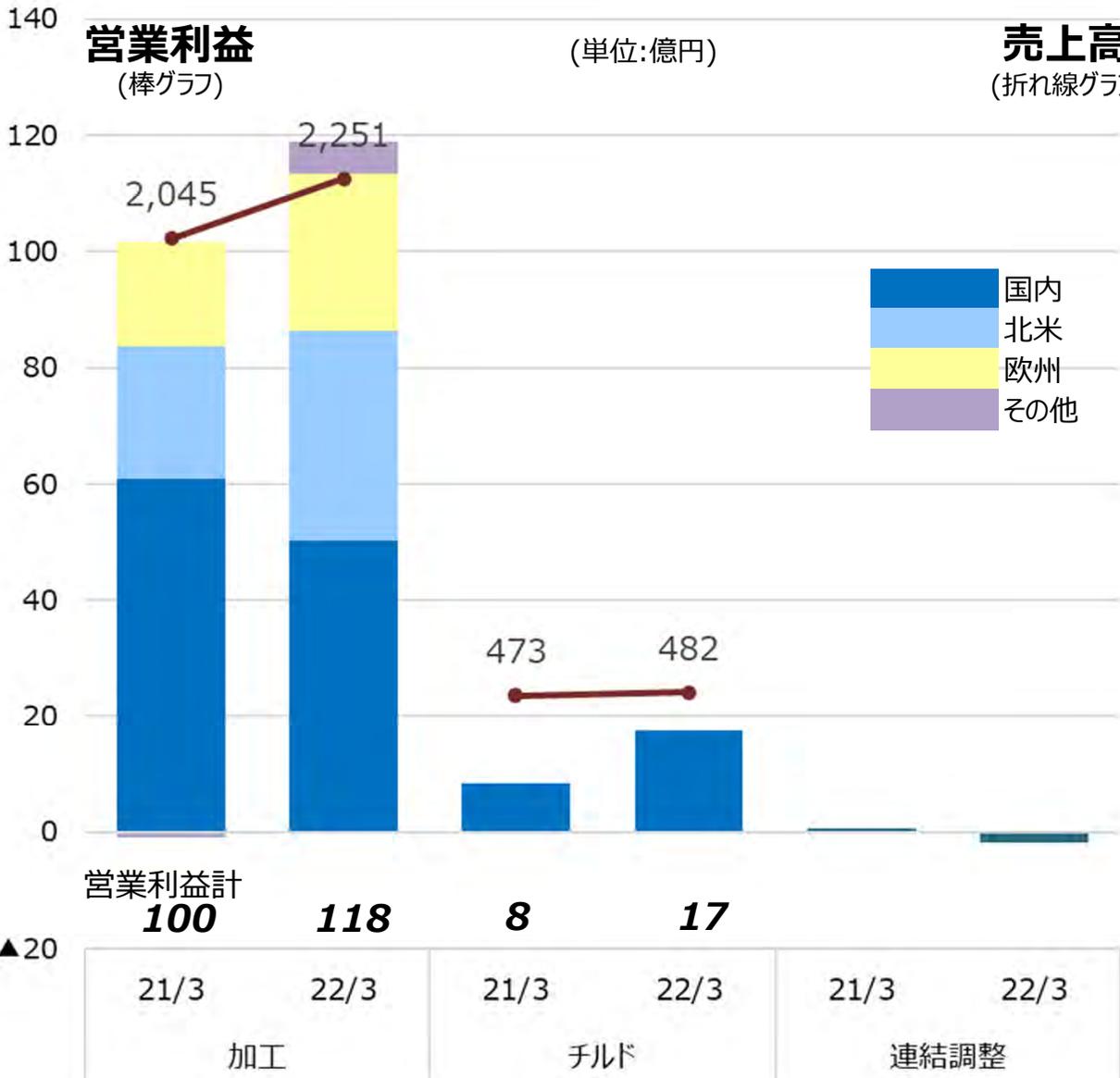
売上高 (四半期別)



営業利益 (四半期別)



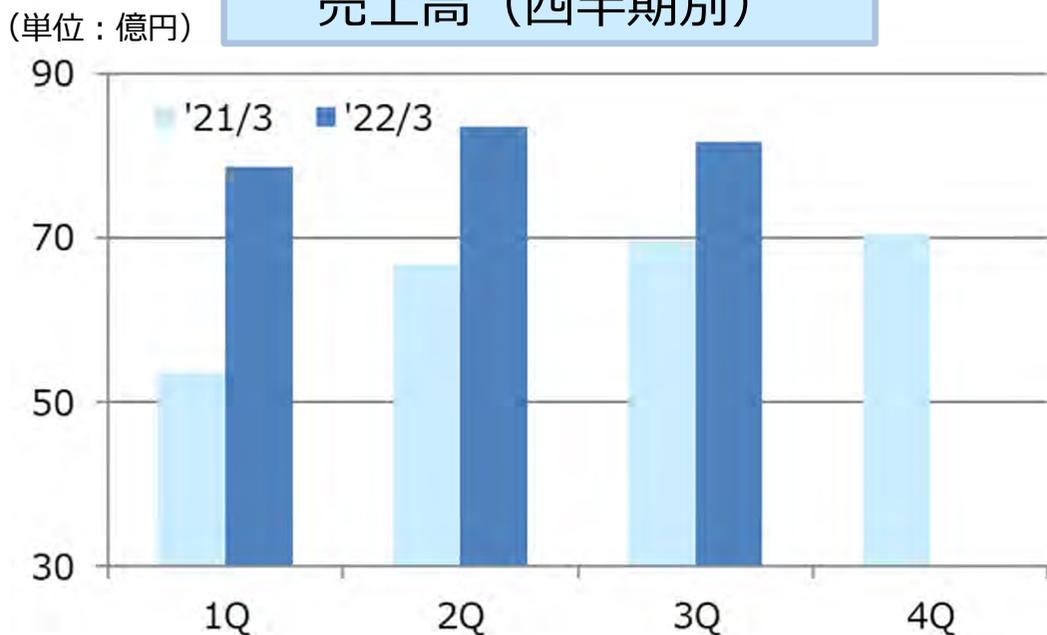
■ 欧米は家庭用・業務用ともコロナ以前の売上・利益を上回る。
 ■ 国内は販売好調も原料価格上昇や為替影響などにより減益。



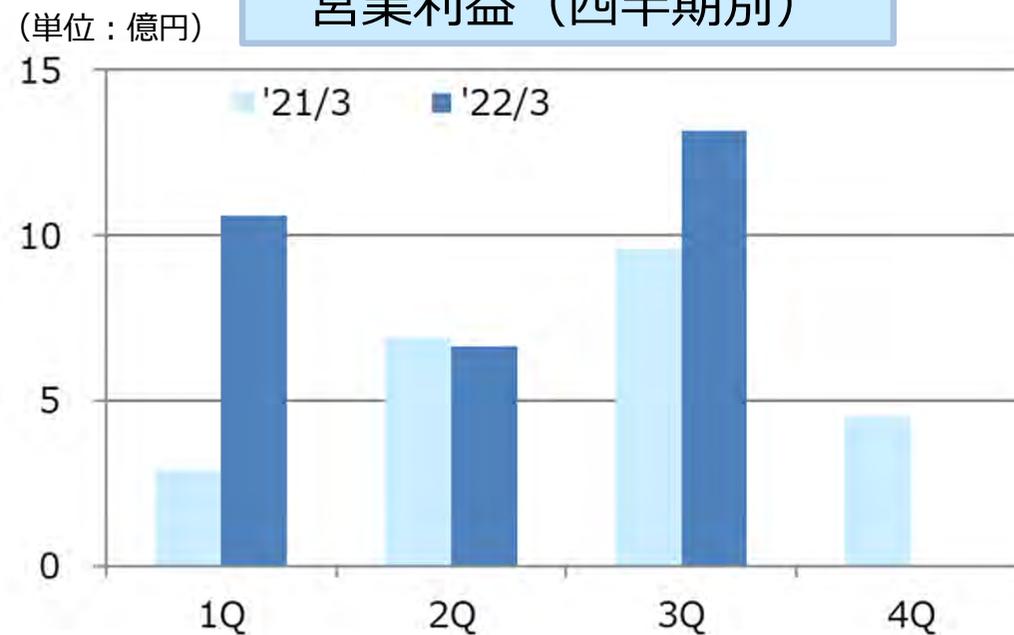
- PCR検査薬や海外向け培地の販売が寄与し好調。
- 健康食品の通販が堅調。

(単位：億円)	2021年3月期 第3四半期	2022年3月期 第3四半期	対前年同期比増減	
			(億円)	増減率(%)
売上高	189	243	53	28.3
営業利益	19	30	10	56.6

売上高 (四半期別)



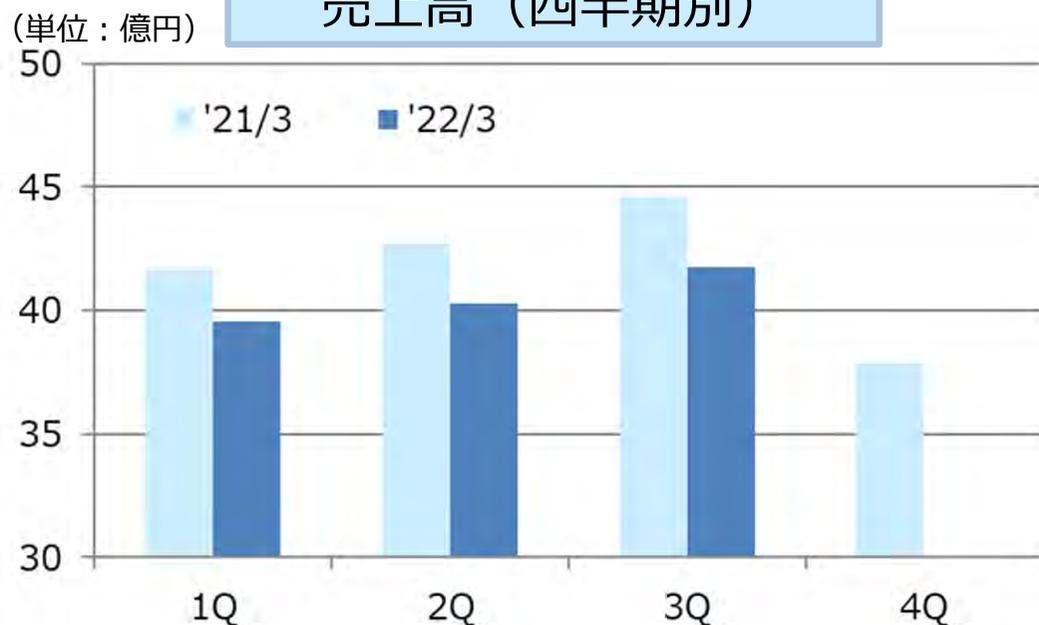
営業利益 (四半期別)



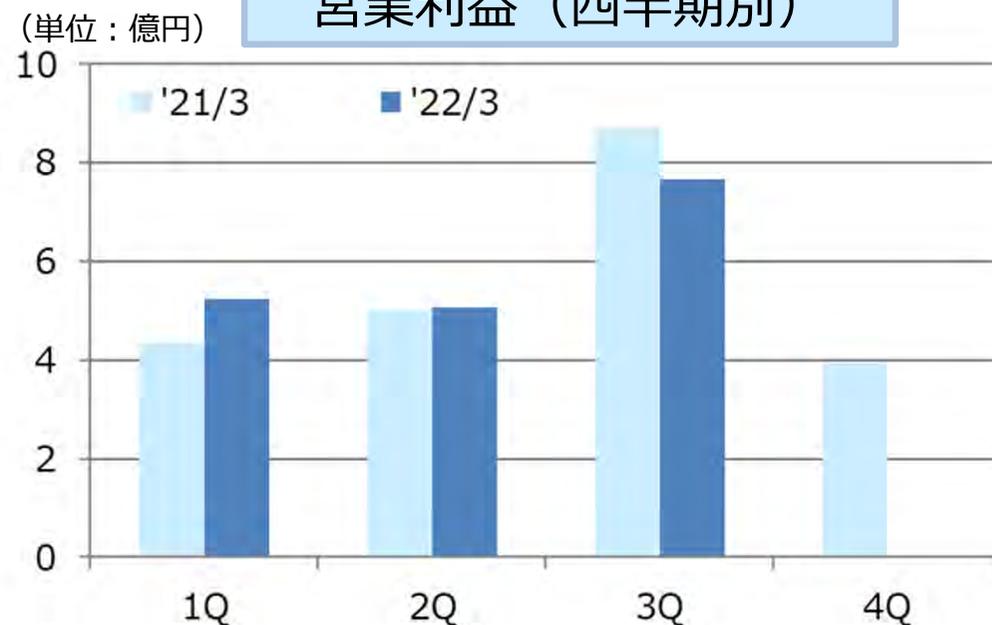
■ 一部事業の譲渡により減収。

(単位：億円)	2021年3月期 第3四半期	2022年3月期 第3四半期	対前年同期比増減	
			(億円)	増減率(%)
売上高	128	121	▲7	▲5.7
営業利益	18	17	▲0	▲0.6

売上高 (四半期別)



営業利益 (四半期別)

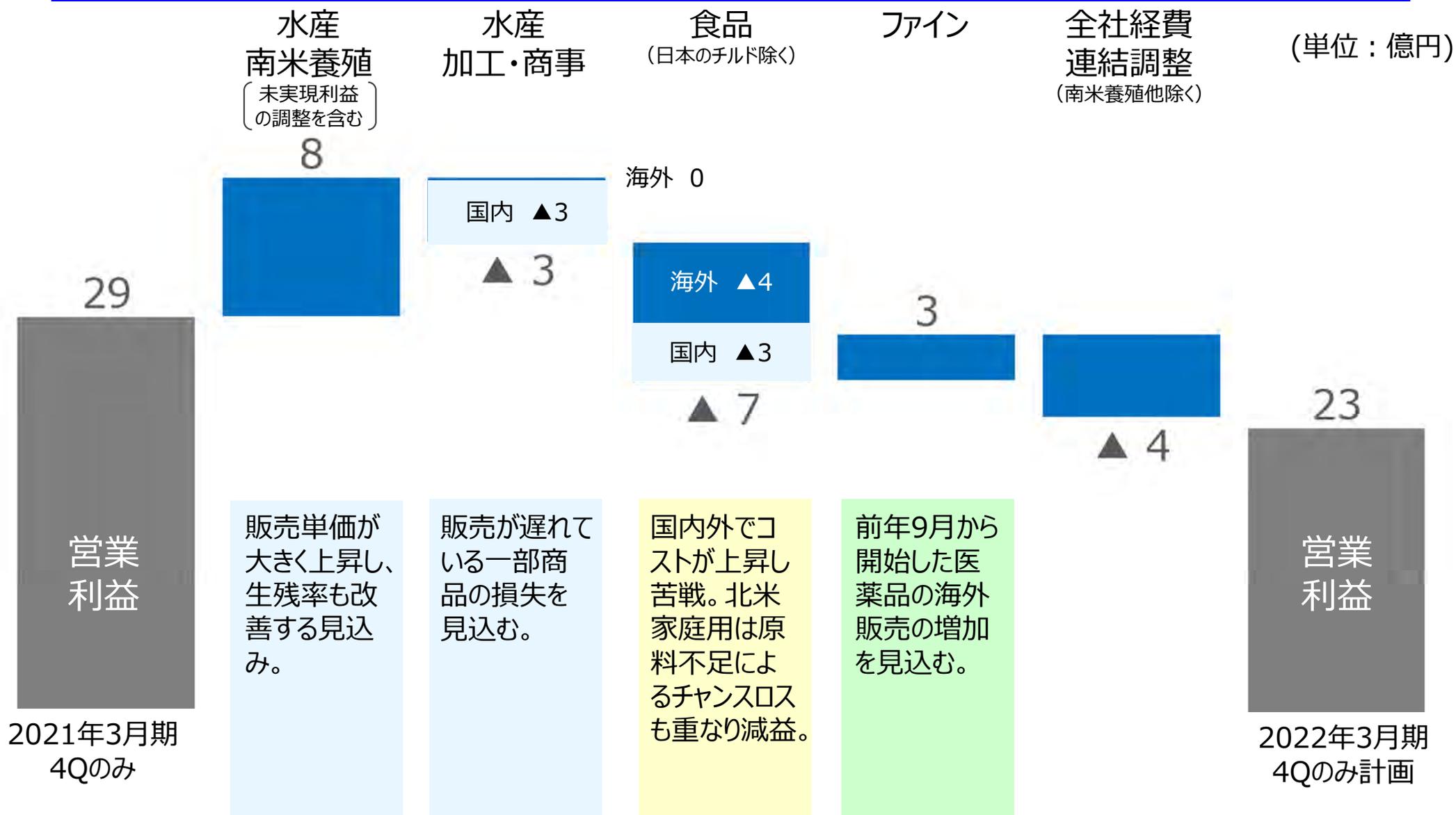


今後の見通し

前期を大きく上回る売上高・利益を見込む。

(単位：億円)	2021年3月期 実績	2022年3月期 修正計画	対前期比増減	
			(億円)	増減率(%)
売上高	6,150	6,900	749	12.2
水産事業	2,497	2,864	366	14.7
食品事業	3,011	3,282	270	9.0
ファインケミカル事業	260	317	56	21.7
物流事業	166	158	▲8	▲5.2
その他	213	279	65	30.7
営業利益	179	270	90	50.0
水産事業	58	127	68	115.6
食品事業	140	156	15	11.3
ファインケミカル事業	23	38	14	59.1
物流事業	22	20	▲1	▲6.9
その他	7	9	1	20.2
全社経費	▲72	▲80	▲8	11.1
経常利益	226	330	103	45.6
親会社株主に帰属する当期純利益	143	180	36	25.1

人件費・原料等の高騰やサプライチェーン停滞によるコストプッシュ圧力が強く、国内外とも食品を中心に利益率低下傾向。



苦戦する北米加工事業で固定資産の減損を実施。

北米水産加工事業について



アラスカ州ですけそうだらを加工してすりみ・フィレ・助子などを製造。

減損の背景

原料の小型化による歩留低下、最低賃金引上げによる人件費増に加え、コロナ対策コスト増などもあり、2期連続で営業損失。

2022年も漁獲枠の減少に加え、最低賃金の引上げ継続など厳しい事業環境を見込む。

減損損失として50億円を計上

<今後の打ち手>

- ワーカー数の削減。
- 生産構成の見直しによる歩留まり率向上。
- 生産設備投資計画の見直し。

<北米水産加工事業の位置づけ>



冷凍食品や練り製品などの原料となるすりみやフィレなどの供給源として当社グループのサプライチェーンを支える重要拠点。

今後の主な打ち手・取組み（水産事業）

水産市況に柔軟に対応し安定した利益を確保する。

- 付加価値(簡便・ヘルシーなど)を高めた水産品に注力し、市況に左右されにくい体質を図る

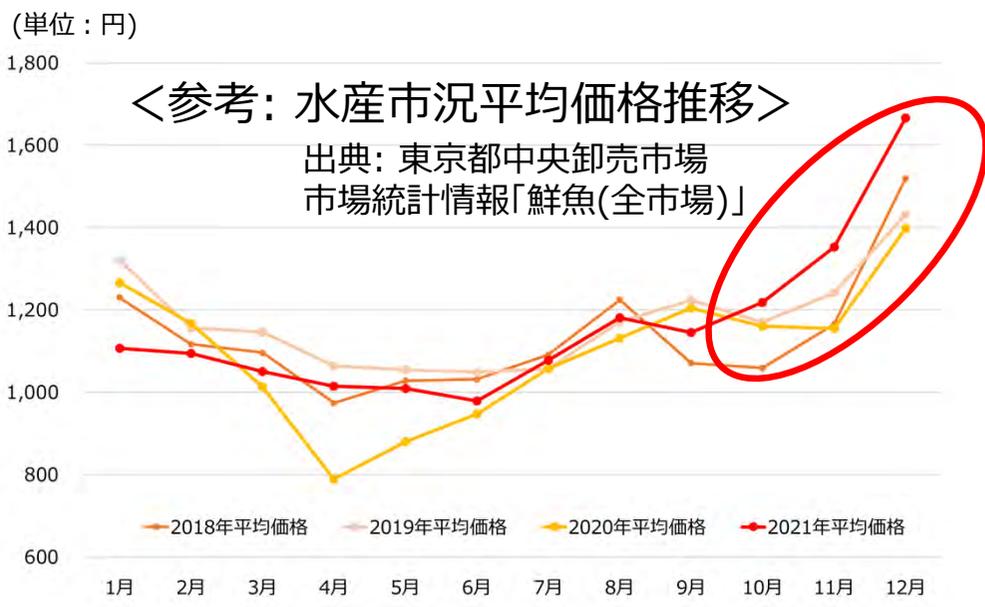


白身魚を野菜と一緒に食べる商品。
トレーごと電子レンジで調理可能。



袋のまま温めてご飯にのせるだけでガパオライスが出来る
「MSCおさかなミンチ」を使用したガパオ

- 市況の変動を見据えた取組み
 - 水産相場の変化に備え、在庫回転を重視した調達と販売を継続。
- 資源アクセスの強化
 - 国内外のグループ会社と協働した水産資源調達の拡大。



4月1日より岩手県で「大槌サーモン養殖事業」を開始

販売地域の拡大及び販売期間の長期化が可能となり、全国の幅広い消費者への販売を見込む。



鮭鱒養殖事業の拡大を目指す。

そのために、

- ① 更なる生産能力拡大
 - ② 海面養殖や種苗生産機能などの整備・拡充
 - ③ 新たな事業機会の創出
- に取り組んでいく。

<国内鮭鱒養殖拠点>



今後の主な打ち手・取組み（食品事業）

値上げ浸透と生産能力増強がポイント。

■ コストアップへの対応
日本：2月に実施する値上げを
着実に実行する。

海外（欧米）：北米は値上げ実施済、
欧州は原料調達の際り込みでコスト抑制。
22年度は欧米とも値上げを予定。

■ 今後の取組み
日本：速筋タンパク商品の拡充

海外（欧州）：販売エリアの拡大と代替タンパ
ク需要への対応のため、生産設備の増強を検討



「タンパク質も選ぶ時代へ」の
キャッチコピーのもと、
様々なメディアでPR活動を
実施し認知度を上げる。



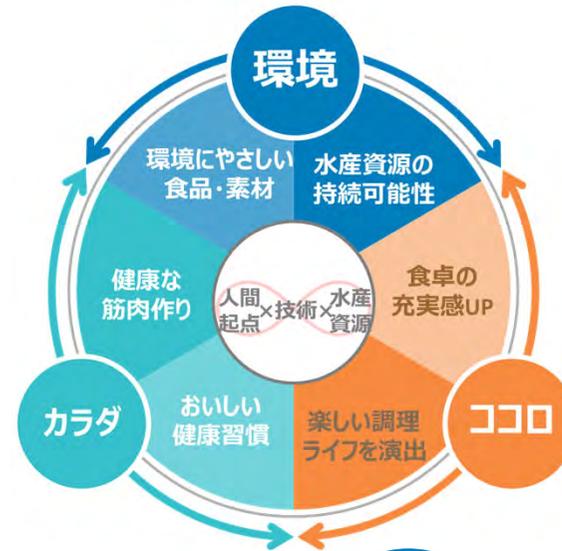
ほうれん草とチーズの
ガレット



ファラフェル
(ひよこ豆のコロッケ)

環境に配慮したココロとカラダのWellness Lifeを実現。

- コロナ禍で定着してきた生活スタイル
- 環境に配慮した心身ともに健康な生活
- 「人間起点・技術起点・水産資源」に基づいた商品づくり



70周年を記念し
様々なプロモーションで拡売



減塩ソーセージ



健康訴求



コレステロールを95%カット
したメンチカツ



時代に即した簡便惣菜の展開に、強みを活かして対応する

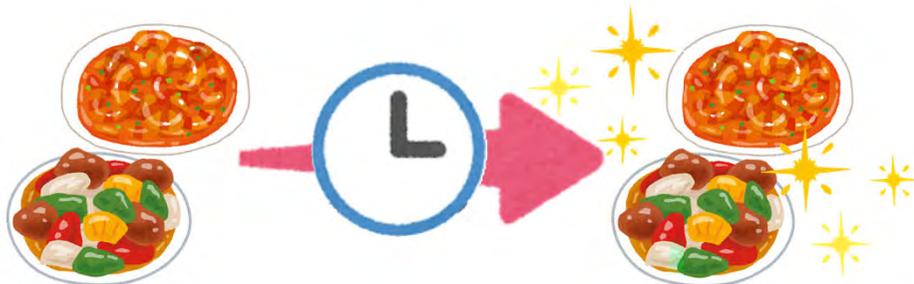
クイックディッシュ (QD) とは・・・

= 流通過程で温度帯変更(冷凍をチルド温度帯に変更)を伴う、電子レンジ・ボイルで喫食する簡便惣菜食品

冷凍とチルドの商品開発・製造機能・ノウハウを有効活用し、フローズンチルド惣菜の商品カテゴリーを拡大する。



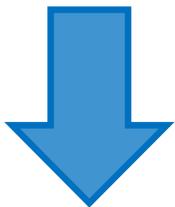
- コロナ禍での内食需要の伸長に対応する。
- 添加物削減で美味しさが向上する。
- 賞味期限が長く設定できるため、フードロス削減につながる。



CVS向け商品一例

医薬品原料の品質保証力を強化する。

医薬品における「製造」と「品質」の機能を分離・強化することで、**品質保証力**を高める。



海外展開の拡大に向け
品質保証力を強化



高純度EPA原体供給メーカーとして当社の強みである

- ①コスト競争力
- ②供給安定力（=原料アクセス）

に加えて**品質保証力**をアップし世界中に展開する。

オミクロン株の蔓延や原材料他の上昇など、
予断を許さない事業環境ですが、
しっかりと、かつ柔軟に対応してまいります。

持続可能な水産資源から世界の人々を健康に



(2021年7月31日現在)

参考資料

連結損益計算書(前年同期比)



前年同期比で増収、増益。

(単位：億円)	2021年3月期 第3四半期	2022年3月期 第3四半期	増減	主な増減要因
売上高	4,662	5,252	589	
売上総利益	737	868	131	
販売費・一般管理費	586	622	35	
営業利益	150	246	95	
営業外収益	48	58	9	助成金収入+12、雑収入▲2
営業外費用	11	11	▲0	
経常利益	188	293	105	
特別利益	22	15	▲7	投資有価証券売却益▲15、受取保険金+10
特別損失	11	61	49	減損損失+50
税金等調整前四半期純利益	199	247	47	
法人税等	49	62	12	
法人税等調整額	13	10	▲2	
四半期純利益	136	173	37	
非支配株主に帰属する 四半期純利益	4	7	3	
親会社株主に帰属する 四半期純利益	131	166	34	

※今期より収益認識基準を適用しています。前年数値は収益認識基準を適用した組替後の数値となります。

為替換算による影響額(売上高)、為替レート



主要在外会社の 為替換算レート	2021年3月期 第3四半期		2022年3月期 第3四半期		前年同期比増減		増減内訳(億円)	
	現地通貨	円貨(億円)	現地通貨	円貨(億円)	現地通貨	円貨(億円)	現地通貨	為替影響
USD(百万ドル)	878	943	1,034	1,128	156	185	167	18
EUR(百万ユーロ)	236	287	268	349	31	62	37	24
DKK(百万クローネ)	1,953	317	2,254	394	300	77	48	28
その他通貨	—	153	—	194	—	40	30	10
計		1,701		2,067		365	284	81

【参考：為替レート】

	2021年3月期 第3四半期	2022年3月期 第3四半期	変動率
米ドル (USD)	105.25円	110.44円	4.9%
ユーロ (EUR)	124.59円	129.89円	4.3%
デンマーククローネ (DKK)	16.74円	17.46円	4.3%

※右表の為替レートは
第3四半期の平均

セグメントマトリックス 売上高(前年同期比)



(単位:億円)

	日本	北米	南米	アジア	ヨーロッパ	仮計	連結調整	連結計
水産事業	1,664 (90)	413 (80)	175 (20)	45 (2)	442 (81)	2,741 (275)	▲561 (▲26)	2,179 (249)
	1,574	332	154	43	360	2,465	▲535	1,930
食品事業	1,749 (35)	539 (83)		52 (15)	393 (81)	2,734 (216)	▲233 (11)	2,501 (228)
	1,713	455		37	311	2,518	▲245	2,273
ファイン事業	262 (52)			4 (0)		266 (52)	▲22 (0)	243 (53)
	209			3		213	▲23	189
物流事業	217 (1)					217 (1)	▲96 (▲8)	121 (▲7)
	216					216	▲87	128
その他事業	243 (57)			1 (0)		245 (57)	▲38 (8)	206 (65)
	186			1		187	▲47	140
仮計	4,138 (237)	952 (164)	175 (20)	103 (18)	835 (163)	6,205 (603)		
	3,900	788	154	85	672	5,602		
連結調整	▲636 (7)	▲120 (▲8)	▲110 (4)	▲74 (▲14)	▲10 (▲2)		▲952 (▲13)	
	▲643	▲112	▲115	▲59	▲7		▲939	
連結計	3,501 (244)	831 (156)	64 (24)	29 (3)	825 (160)			5,252 (589)
	3,257	675	39	25	664			4,662

※上段は当期累計実績、下段は前年同期累計実績、右肩括弧内は増減を表わす。

※連結調整にはグループ間取引による売上高消去が含まれる。

セグメントマトリックス 営業利益(前年同期比)



(単位:億円)

	日本	北米	南米	アジア	ヨーロッパ	全社経費	仮計	連結調整	連結計	営業利益率(%)
水産事業	65 (49)	13 (7)	19 (9)	1 (0)	14 (9)		113 (76)	▲0 (▲16)	112 (60)	5.2 (2.5)
	16	5	10	1	4		37	15	52	2.7
食品事業	67 (▲1)	36 (13)		5 (6)	26 (9)		136 (27)	▲1 (▲2)	134 (24)	5.4 (0.6)
	69	22		▲0	17		109	0	109	4.8
ファイン事業	29 (11)			0 (0)			30 (11)	▲0 (▲0)	30 (10)	12.5 (2.3)
	18			0			19	0	19	10.2
物流事業	17 (▲0)						17 (▲0)	0 (0)	17 (▲0)	14.8 (0.7)
	18						18	▲0	18	14.0
その他事業	6 (2)			0 (▲0)			6 (1)	1 (0)	8 (2)	3.9 (0.1)
	4			0			5	0	5	3.9
全社経費						▲56 (▲1)	▲56 (▲1)	▲0 (▲0)	▲57 (▲2)	
						▲54	▲54	0	▲54	
仮計	187 (60)	49 (21)	19 (9)	8 (7)	40 (18)	▲56 (▲1)	248 (115)			
	126	28	10	1	22	▲54	133			
連結調整	▲0 (▲6)	2 (▲0)	▲1 (▲9)	▲0 (▲1)	▲2 (▲0)	0 (0)		▲2 (▲19)		
	6	3	8	1	▲1	▲0		16		
連結計	187 (54)	51 (20)	17 (▲0)	7 (5)	38 (18)	▲56 (▲1)			246 (95)	4.7 (1.5)
	133	31	18	2	20	▲54			150	3.2

※上段は当期累計実績、下段は前年同期累計実績、右肩括弧内は増減を表わす。

※連結調整にはのれん償却、たな卸資産の未実現利益消去等が含まれる。

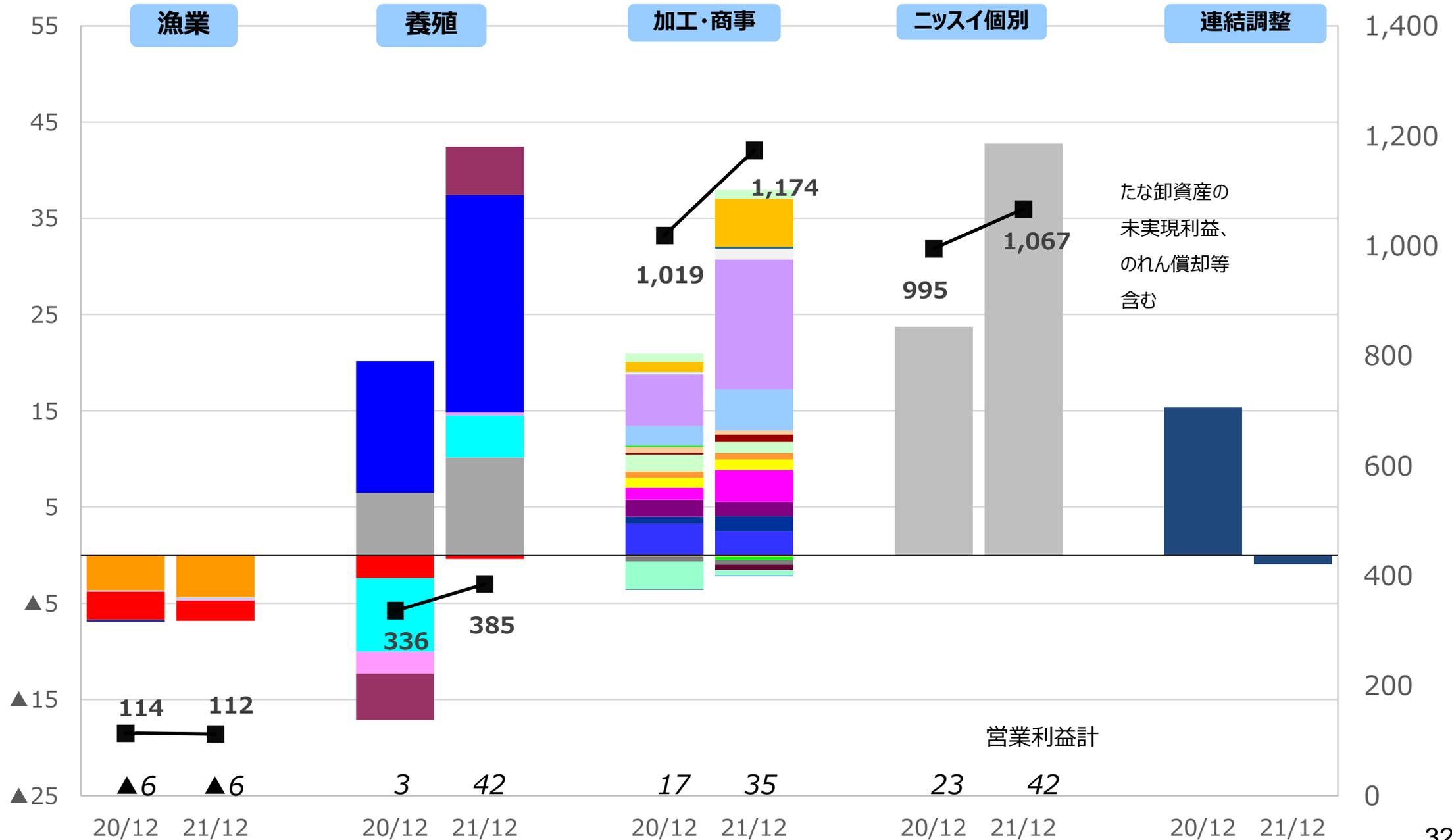
水産事業 売上高・営業利益(前年同期比)



営業利益 (棒グラフ)

(単位:億円)

売上高 (折れ線グラフ)



たな卸資産の
未実現利益、
のれん償却等
含む

営業利益計

※グラフ下部の斜体数値は機能別営業利益合計数値

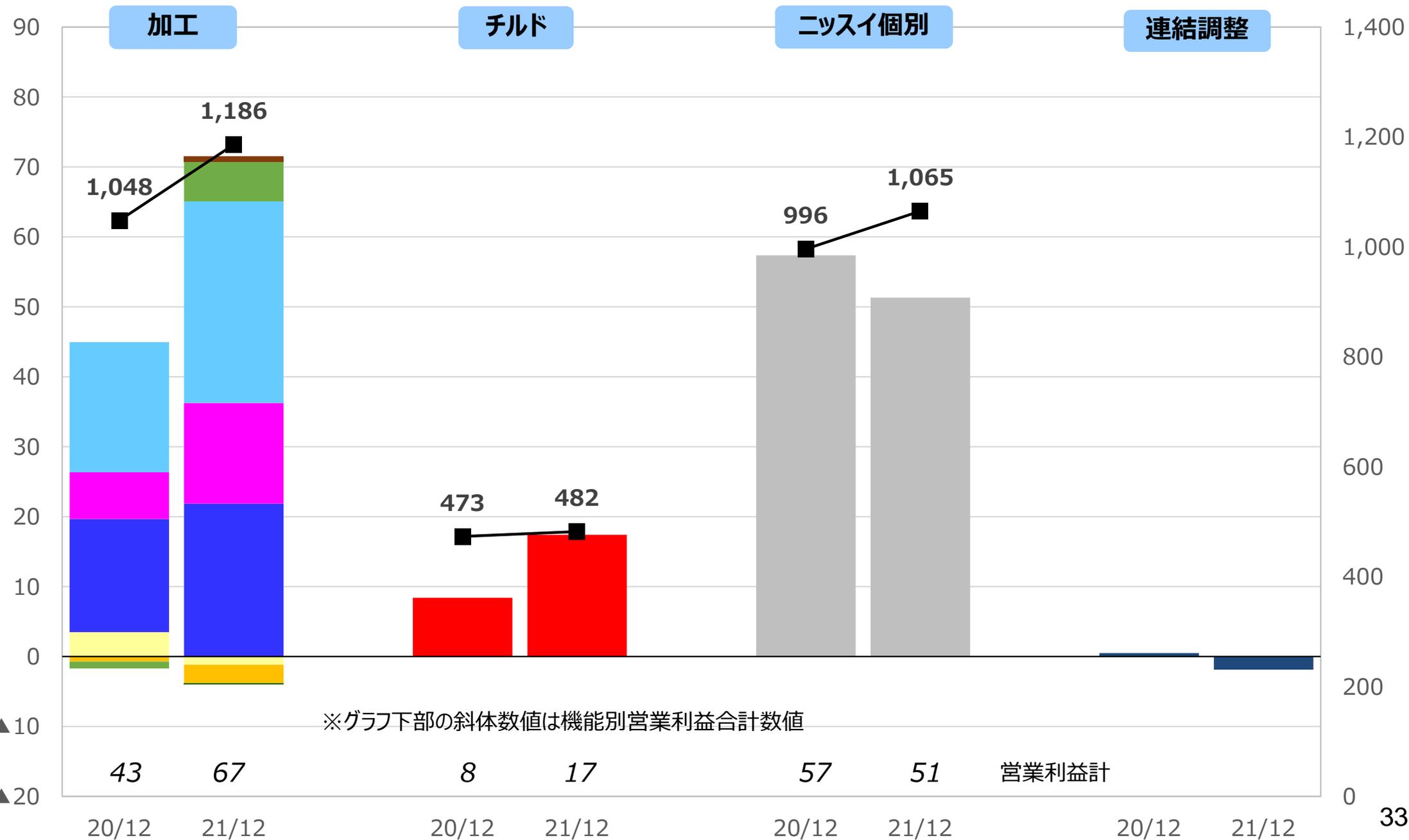
食品事業 売上高・営業利益(前年同期比)



営業利益 (棒グラフ)

(単位:億円)

売上高 (折れ線グラフ)



本資料に記載されている、当期ならびに将来の業績に関する見通し等は、現在入手可能な情報に基づき当社の経営者が合理的と判断したものであり、これらの達成を保証するものではありません。

実際の業績は、様々な要因により、見通し等とは大きく異なることがあります。その要因としては、市場の経済状況および製品の需要の変動、為替相場の変動、国内外の各種制度や法律の改定などが含まれます。

従いまして、本資料の利用は、利用者の判断によって行いますようお願い致します。本資料の利用によって生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負うものではないことをご認識頂きますようお願い申し上げます。

日本水産株式会社

2022年2月4日

証券コード：1332

お問合せ先：経営企画IR部経営企画IR課

03-6206-7037

<https://www.nissui.co.jp/ir/index.html>

